A Parasiter

soundonly02 (声無き声)

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

A Parasiter

【Nコード】

N2673Y

【作者名】

soundonly02 (声無き声)

【あらすじ】

喜美子と小夜子2人は親友だった…

しかしそれは思い込み

小夜子は寄生されていた

現代人にありえそうな話をサスペンスっぽくしてみました

お見苦しい所も多々ありますが感想を頂けたら幸いです

物事の始まりは何時も突然

前略

拝啓 常葉小夜子様

草花は活き活きと緑を茂らせ、日々成長を見るのが楽しく思える季節がやって来ました。小夜ちゃんも夏は嫌いでしたね。虫が大の苦手な蝉を見ただけで気が動転してしまう程でしたね。

この度私にも夢を現実に変えるチャンスが訪れました！次会うときは私もひと皮剥けていると思います。近い内に会いたいですね。お元気で。

中嶋喜美子より

追伸・近いうちにまた引っ越します。新居は懐かしいあの街なんだよ！

ふと目が覚めた、時計の短針はまだ3時を指す前だ。一体いつ頃から眠っていたのだろうか…。なんだか随分と懐かしく怖い夢を見ていた気がする。

「ああゝあ」

ふと声を出したくなった。

自分以外の誰かが居ないことが酷く怖ろしい事に感じ

沈黙と闇が酷く恐ろしく感じられたからだ。

原因はあれだ…昨日の電話。古い友人の葬儀を知らせる電話。

その内容はあまりにも唐突すぎた…

『…もしもし。キミちゃんかい？羽生はこの小夜子のおばちゃんだよ。覚えてるかい？』

「…はい」

その名前は直ぐに出てきた。

おばさんの声はどこか生気がなかった。

「お久しぶりですおばさま。どうかなさったのですか？」

『いや…ねえ…一週間前から小夜子が居なくなってねえ』

「えっ！？小夜ちゃんが！？」

『そうなのよ…そしたら今朝警察から連絡がきてね…うっ…うっ…うっ』
そう言い終わるか終わらない内におばさんはいきなり泣き始めてしまった

「も、もしかして…」

私はこの時直感した。小夜ちゃんに不幸があったことを。

『小夜がね…小夜が死体で見つかったって…』

おばさんはそう言うと携帯のスピーカーが吹っ飛んだかと思うくらいの大声で泣き叫びだした。

「おばさま！落ち着いて！今から私そちらに行きます！」

そう言うと2、3こと会話を交わし受話器を切った

運良く大学はまだ長期休暇中だ。

羽生は山に囲まれた田舎っぽい田舎町だ。羽生まで新幹線を一時間も乗れば行ける。

私は小夜ちゃんの死を聞いたのに自然と落ち着いていた。

これが私の東京での最後の記憶だ。

そして今私は羽生に居る。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2673y/>

A Parasiter

2011年11月6日02時08分発行